



畑作・野菜・花き生産情報 第6号

令和3年9月17日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

- ◎共通事項：台風や大雨に備え、ほ場や施設周辺にある排水溝の点検や整備のほか、施設への雨水流入を防ぐために土のうを設置するなどの排水対策を徹底しよう！
- ◎大豆の生育はおおむね順調です。適期刈取に向け準備を進めよう！
- ◎小麦は、ほ場の排水対策と土づくり、適期は種で越冬前の生育を確保しよう！
- ◎ながいもの生育はおおむね順調です。にんにくは適期に植え付けしよう！
- ◎秋ギクの生育はおおむね順調です。収穫まで適正な温度管理を徹底しよう！

畑作物

1 大豆

(1) 生育状況

- ア 生育はおおむね順調であるが、生育が旺盛なほ場では倒伏が見られる。
- イ 全般的に病害虫の発生は少ないが、食葉性害虫が散見される。

表-1 大豆の生育状況（9月10日調査）

場所	年次	は種期 (月日)	出芽期 (月日)	開花期 (月日)	草丈 (cm)	主茎長 (cm)	葉数 (枚)	分枝数 (本)	稔実莢数 (莢/本)
農林総合 研究所 (黒石市)	本年 (平年差・比)	5/26 (1日遅)	6/5 (±0日)	7/25 (2日早)	105.7 (103%)	59.4 (101%)	15.0 (108%)	3.1 (100%)	42.9 (107%)
	平年	5/25	6/5	7/27	102.7	58.8	13.9	3.1	40.1
	前年	5/26	6/3	7/25	95.7	51.8	14.3	2.8	37.7
野菜研究所 (六戸町)	本年 (平年差・比)	5/14 (1日早)	5/22 (3日早)	7/20 (6日早)	121.4 (111%)	78.2 (117%)	-	3.0 (107%)	25.8 (85%)
	平年	5/15	5/25	7/26	109.6	66.6	-	2.8	30.5
	前年	5/15	5/28	7/27	122.4	75.8	-	2.0	25.8
藤崎町 (西中野目)	本年 (平年差・比)	6/3 (±0日)	6/11 (2日早)	7/23 (6日早)	105.0 (114%)	-	12.4 (91%)	-	33.2 (97%)
	平年	6/3	6/13	7/29	91.8	-	13.6	-	34.1
	前年	5/30	6/7	7/25	108.1	-	14.3	-	27.4
五所川原市 (金木町嘉瀬)	本年 (平年差・比)	6/10 (5日遅)	6/20 (7日遅)	8/1 (1日遅)	79.3 (85%)	-	14.1	-	28.9
	平年	6/5	6/13	7/31	93.2	-	-	-	-
	前年	6/6	6/13	8/3	79.6	-	13.9	-	-
十和田市 (切田)	本年 (平年差・比)	6/4 (2日早)	6/10 (5日早)	7/28 (7日早)	107.4 (109%)	-	14.8	-	34.8 (88%)
	平年	6/6	6/15	8/4	98.3	-	-	-	39.6
	前年	6/6	6/11	8/3	108.9	-	-	-	47.9

注) ①品種は「おおすず」

注) ②平年値は、農林総合研究所が過去15か年、野菜研究所が過去14か年、藤崎町が過去10か年、五所川原市が過去10か年（うち葉数はH23、H24を除く）、十和田市が過去20か年の平均値

(2) 収穫等での留意点

- ア 台風や大雨などでほ場に滞水しないよう、明きよなどによる排水対策を徹底する。
- イ 汚粒の原因となる雑草や青立ち株は、収穫前に必ず抜き取る。
- ウ コンバイン収穫では、子実水分が20%以下、茎水分が50%以下に低下した時が適期である。適期収穫に向け、コンバインや乾燥・調製施設の準備を進める。
- エ 土による汚粒の発生を防ぐため、無理に地際まで刈り取らない。

2 小麦

(1) ほ場の準備

- ア 耕起・砕土
出芽・苗立ちの確保や除草剤の効果を高めるため、耕起・砕土は丁寧に行い、砕土率（土塊の大きさ2 cm以下）70%以上を確保する。
- イ 土づくり
小麦の生育に適した土壌酸度はpH6.0～7.0である。pH6.0以下では生育が悪くなるので、苦土石灰等で酸度矯正をする。また、リン酸資材の施用は生育を促進し、分けつや稔実をよくするので、土壌中の有効態りん酸は10mg/100gを目標に改良する。
有機物や土づくり肥料の施用により地力の向上を図る。
- ウ 排水対策
明きよや弾丸暗きよ、心土破碎などの排水対策を必ず実施する。
- エ 施肥
基肥は、堆肥施用の有無や連作年数あるいは前作を考慮して基準量を増減する。

表－2 土づくり肥料投入量の目安

資材名	投入量(kg/10a)
石灰資材	100～150
ようりん	100～150

表－3 地力条件と施肥量

地力条件	基肥量 (kg/10a)		
	窒素	りん酸	加里
堆肥が施用され地力が高い（野菜跡地等）	5～6	12～15	9～10
堆肥が施用されず地力が並み（基準量）	7～8	12～15	9～10
地力が低い（連作3年以上のほ場など）	9～10	12～15	9～10

(2) は種

- ア は種時期
越冬前の生育量を確保するため、9月25日頃までに、は種作業を終える。
- イ は種量
ネバリゴシ及びキタカミコムギのドリル播きによるは種量は、津軽地域では8～10kg/10a、県南地域では6～8kg/10aである。は種時期が9月第6半旬以降にずれ込む場合には、2kg/10a程度は種量を増やす。
- ウ 種子消毒
紅色雪腐病の防除のため、薬剤による種子消毒を行う。

表－4 地域及び品種別は種時期・量 (kg/10a)

品 種	ネバリゴシ・キタカミコムギ		ゆきちから		もち姫
	津軽	県南	津軽		県南
は種時期	9/16～25	9/16～25	9/16～25	10/1～20	9/15～25
は種量	8～10	6～8	8	11	6～8

(3) 雑草防除

土壌処理剤の散布は、は種後速やかに行う。また、小麦生育期では雑草の生育が進む前に茎葉処理剤を散布する。

野 菜

1 ながいも

(1) 生育状況

ア いもの肥大はおおむね平年並となっているものの、一部でいものくびれやコブなどの奇形が見られる。

イ 病害虫は、葉渋病、炭そ病及びナガイモコガの発生が見られる。

表－5 ながいもの生育状況 (9月10日現在)

場 所	年 次	植付期 (月日)	萌芽 揃期 (月日)	つるの ネット頂 到達日 (月日)	9月10日			
					茎葉重 (g)	いも長 (cm)	いも重 (g)	いも径 (mm)
野菜研究所 (六戸町)	本 年 (平年差・比)	5/25 (±0日)	6/18 (6日早)	7/17 (3日早)	543.5 (111%)	73.0 (106%)	975.7 (93%)	69.1 (106%)
	平 年	5/25	6/24	7/20	488.6	69.0	1052.7	64.9
	前 年	5/25	6/25	7/23	559.2	72.1	1045.6	61.8
五戸町 (上市川)	本 年 (平年差・比)	5/3 (9日早)	6/10 (5日早)	7/7 (1日早)	— (—)	89.2 (115%)	995.0 (101%)	63.2 (103%)
	平 年	5/12	6/15	7/8	—	77.5	987.7	61.2
	前 年	5/5	6/11	7/10	—	75.7	1097.7	64.6
東北町 (野田頭)	本 年 (平年差・比)	5/12 (2日早)	6/2 (5日早)	7/4 (8日早)	— (—)	62.7 (98%)	868.7 (114%)	52.6 (100%)
	平 年	5/14	6/7	7/12	—	64.3	762.3	52.4
	前 年	5/14	6/10	7/10	—	59.1	779.7	53.9

注) ①平年：野菜研は平成30～令和2年の3か年の平均値

五戸町は平成14～令和2年の19か年の平均値

東北町は平成20～令和2年の13か年の平均値

②種子：野菜研は園試系6の1年子(90～110g)ガンク切除

(ガンク切除時期は植付30日前、前年までは植付15日目の頂芽切除)

五戸町は庄司系の2年子(120～150g)頂芽切除

東北町は庄司系の1年子(80～120g)頂芽付

③栽植様式：野菜研は畦幅120cm×株間24cm(3,472株/10a)

五戸町は畦幅120cm×株間22cm(3,788株/10a)

東北町は畦幅110cm×株間21cm(4,329株/10a)

(2) 今後の留意点

- ア 今後のいも肥大に重要な茎葉を確保するため、病虫害防除に努める。
- イ 採種ほ場では、ウイルス病株の抜取りや、媒介するアブラムシ類の防除を徹底する。
- ウ 台風などによる強風や大雨に備え、ネットや支柱を補強し、明きよを手直しして排水溝へ接続するなどの対策を徹底する。
- エ 植溝が陥没したときは速やかに埋め戻す。

2 にんにく

- (1) 種苗増殖にあたっては、ウイルス感染及びイモグサレセンチュウ汚染拡大防止のため、種苗増殖「専用ほ場」を設置するとともに、JA等から購入した「優良種苗」を植え付ける。
- (2) 植付けは10月上旬までに行い、気象情報を参考に遅れないよう計画的に作業を進める。
- (3) ネギアザミウマ、チューリップサビダニの被害を防ぐため、種球の分割・調製はできるだけ植付け直前に行う。
- (4) イモグサレセンチュウの被害は、強制乾燥終了後50日頃からりん片に現れ始めるので、種球の発根部付近の褐変や腐敗の有無を確認し、発生が懸念される場合は指導機関等の診断を受ける。また、被害種子は絶対に植付けしない。
- (5) 黒腐菌核病やチューリップサビダニ、イモグサレセンチュウの防除のため、種子消毒は必ず実施する。

3 秋冬だいこん

(1) 生育状況

- ア は種後の大雨や8月中旬の低温・日照不足により、葉長、根重ともに平年を大幅に下回っている。
- イ 害虫は、キスジノミハムシの被害が散見される。

表-6 秋冬だいこんの生育状況（9月10日現在）

場 所	年 次	は種期 (月日)	9月10日		
			葉長 (cm)	葉数 (枚)	根重 (g)
東北町 (野田頭)	本 年	8/7	20.3	11.2	13.1
	(<small>平年差・比</small>)	(<small>±0日</small>)	(66%)	(79%)	(18%)
	平 年	8/7	30.9	14.2	71.9
	前 年	8/5	37.8	20.5	139.0

- (注) ①平年：平成13年～令和2年の20か年の平均値
②品種：夏の翼
③栽植様式：畦幅50cm×株間23cm、1条植え（8,696株/10a）

(2) 今後の留意点

- ア キスジノミハムシ、アブラムシ類、コナガなどの発生に注意し、早期に防除する。
- イ 台風や大雨に備え、明きよを手直しして排水溝へ接続するなどの対策を徹底する。

4 秋にんじん

(1) 生育状況

- ア 地上部は平年を下回っているものの、地下部は平年を大幅に上回っており、生育は順調である。
- イ 病害は、黒葉枯病の発生が見られる。

表-7 秋にんじんの生育状況（9月10日現在）

場 所	年 次	は種期 (月日)	9月10日				
			葉長 (cm)	葉数 (枚)	根長 (cm)	根径 (mm)	根重 (g)
平川市 (大木平)	本 年	6/18	49.6	7.2	18.4	44.8	161.1
	(平年差・比)	(2日早)	(96%)	(91%)	(121%)	(125%)	(199%)
	平 年	6/20	51.4	7.9	15.2	35.9	81.1
	前 年	6/20	63.9	7.9	17.4	33.6	75.1

注) ①平年：平成9年～令和2年の24か年の平均値
 ②品種：向陽2号

(2) 今後の留意点

- ア 黒葉枯病、ヨトウムシなど病害虫の早期発見・早期防除に努める。
- イ 葉の半数以上が地際部まで垂れ下がった頃に試し掘りを行い、M、L級を中心に収穫する。
- ウ 台風や大雨に備え、明きょを手直しして排水溝へ接続するなどの対策を徹底する。

5 ごぼう

(1) 生育状況

- ア 8月9日からの大雨で葉が枯れ、現在は新しい葉が伸長し、回復傾向にあるものの、草丈は平年を大幅に下回っている。
- イ 病害虫は、黒斑細菌病の発生が見られる。

表-8 ごぼうの生育状況（9月10日現在）

場 所	年 次	は種期 (月日)	9月10日	
			草丈 (cm)	葉数 (枚)
三沢市 (三沢猫又)	本 年	5/1	70.5	3.1
	(平年差・比)	(1日遅)	(68%)	(91%)
	平 年	4/30	103.7	3.4
	前 年	4/24	110.7	3.2

注) ①平年：平成23～令和2年の10か年の平均値
 ②品種：柳川理想

(2) 今後の留意点

- ア 黒条病、黒斑細菌病、アブラムシ類の防除に努める。
- イ 台風や大雨に備え、明きょを手直しして排水溝へ接続するなどの対策を徹底する。

6 夏秋トマト

(1) 生育状況

- ア 11段花房の開花期は平年並から平年より3日早いものの、8月中旬に気温が平年より低く推移した影響で着色が進まず、出荷量が少なくなっている。

イ 病害虫は、灰色かび病、うどんこ病、タバコガ類、アザミウマ類、コナジラミ類などの発生がみられる。

表-9 トマトの生育状況 (9月10日現在)

場 所	年次	定植期 (月日)	1 段果房		9 段果房		11段果房	
			開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)
五所川原市 (金木町嘉瀬)	本年 (平年差・比)	4/28 (4日早)	5/6 (±0日)	3.9 (115%)	7/14 (4日早)	3.3 (127%)	7/30 (3日早)	2.8 (140%)
	平 年	5/2	5/6	3.4	7/18	2.6	8/2	2.0
	前 年	5/2	5/8	3.4	7/20	2.8	8/3	1.8
三戸町 (斗内)	本年 (平年差・比)	5/11 (4日早)	5/28 (1日遅)	4.2 (117%)	8/9 (2日早)	1.7 (85%)	9/2 (±0日)	— (—)
	平 年	5/15	5/27	3.6	8/11	2.0	9/2	1.4
	前 年	5/11	6/2	4.8	8/15	1.9	9/3	1.2

注) ①平年：五所川原市は本年度から設置場所・担当農家を変更したため、平年(H29～R2)、前年は参考値
三戸町は平成20～令和2年の13か年の平均値

②品種：五所川原市は桃太郎セレクト(台木：キングバリア)、三戸町はりんか409(自根)

(2) 今後の留意点

- ア かん水は、土壌の乾湿が極端に変化しないよう生育を見ながら実施する。ただし、9月下旬以降は、過湿、多窒素で裂果が増えるので、かん水を控え、追肥は中止する。
- イ 最低気温が16℃以下になったら、夜間はハウスを閉めて保温し、果実肥大や着色を促進する。
- ウ 日中は、ハウスを閉めきると内部の湿度が高まり、葉かび病や灰色かび病が発生しやすくなるので、換気と薬剤散布を徹底する。さらに着色始めとなった果房の下葉を2枚残して摘葉し、通気を確保する。
- エ タバコガ類、コナジラミ類等の病害虫の発生に注意し、防除を徹底する。
- オ 台風や大雨に備え、ハウスの補強や施設周辺にある排水溝の点検・整備、施設への雨水流入を防ぐために土のうを設置するなどの対策を徹底する。

花 き

1 秋ギク

(1) 今後の作業

- ア 生育は、津軽地域の7月上旬定植では、草丈、葉数とも平年並、県南地域の6月下旬定植では、草丈、葉数いずれも平年(参考値)を上回っており、おおむね順調である。
- イ 病害虫は、アザミウマ類、アブラムシ類、ハダニ類、オオタバコガが散見される。

表-10 生育調査（9月10日現在）

場 所	年 次	品 種	定植月日 (月日)	草 丈 (cm)	葉 数 (枚)	備 考
五所川原市	本 年 (平年差・比)	神 馬	7月8日 (3日遅)	93.7 (100%)	47.2 (96%)	2本仕立て
	平 年	神 馬	7月5日	94.1	49.2	2本仕立て
	前 年	神 馬	7月2日	99.5	52.5	2本仕立て
新郷村	本 年 (平年差・比)	精の一世	6月30日 (16日早)	108.1 (150%)	56.7 (142%)	1本仕立て
	平 年	精の一世	7月16日	72.0	40.1	1本仕立て
	前 年	精の一世	7月15日	76.1	44.9	1本仕立て

注) 平年：五所川原市は平成22～令和2年の11か年の平均値

新郷村は平年（令和元～2年の2か年平均値）、前年の設置場所・担当農家が異なるため参考値

(2) 今後の作業

ア 温度管理

ハウス内の温度は、日中25℃以下、夜間15℃を目標に管理する。

イ 病害虫の防除

白さび病、灰色かび病の予防散布を定期的に行うほか、アブラムシ類、アザミウマ類、ヤガ類等の早期発見・早期防除に努める。特にオオタバコガは無加温ハウス内で越冬し、来年の発生源となる可能性があるため、防除を徹底する。

ウ 収穫

2～3分咲きを目安に採花するが、出荷先により異なるため事前に確認する。

早朝に採花する場合は、朝露に濡れたまま収穫すると荷傷みの原因となるので乾いてから行う。

2 夏秋ギク

(1) 今後の作業

親株養成に切り下株を利用する場合は、日当たりと排水の良いハウスを選ぶ。また、健苗を確保するため、病害虫の被害が無い健全株を選び、10月下旬までに伏せ込みを行う。

畑作・野菜・花き生産情報第7号は令和3年10月20日発行の予定です。

◎ほ場を見回るなど農作物の盗難防止に努めましょう。

◎秋の農作業安全運動展開中！（8月15日～10月31日）

- 1 慣れた作業でも油断せず、しっかり安全を確認しましょう。
- 2 必ず、作業の合間に十分な休憩を取りましょう。
- 3 自分は「大丈夫」と過信せず、無理のない作業を行いましょ。
- 4 一人での作業は避け、やむを得ず一人で作業を行う場合は、家族に作業場所と内容を伝え、携帯電話を持ちましょう。
- 5 家族や周りの人など、地域全体で注意を呼び掛けましょう。

◎『日本一健康な土づくり運動』展開中！ ～元気な作物は健康な土が育みます～
 土壌診断に基づいた適正施肥や土壌改良は、施肥コストの低減にもつながります！
 緑肥を活用し、作物の生育に好適な土壌環境づくりを心がけましょう！
 効率よく堆肥を使い、堆肥の肥料成分を考慮した化学肥料の低減に努めましょう！

◎農薬は適正に使用しましょう。

- 1 農薬を使用する際は、事前に必ず最新の登録内容を確認し、使用基準を守って使用しましょう。
農林水産省【農薬登録情報提供システム】
<https://pesticide.maff.go.jp/>
(独)農林水産消費安全技術センター【農薬登録情報・速報】
https://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm
- 2 飛散防止に努め、住宅地等の近隣で使用する際は、事前に周囲に知らせましょう。
- 3 クロルピクリン剤など土壌くん煙剤を使用する際は、住宅、畜舎等に近接する農地での使用は避け、薬剤の施用後は速やかにシート（厚さ0.03mm以上または難透過性の資材）で被覆しましょう。
- 4 市販の除草剤には、農作物等の栽培管理に使用できない「非農耕地専用除草剤」があるので、注意しましょう。
- 5 農薬は使い切りを徹底し、河川等には絶対に捨ててはいけません。

◎食中毒を防ぐため、生産段階から「野菜の衛生管理」に努めましょう。

- 1 栽培に使用する水の衛生管理や水質の確保に努めましょう。
 - 2 家畜ふん堆肥は、水分調整や定期的な切り返しを行い、十分発酵させましょう。
家畜ふん中の菌の死滅には、55℃以上の温度が3日以上続いている状態が必要です。
 - 3 家畜ふん堆肥を野菜栽培に使用する際は、製造工程や熟成度を確認しましょう。確認できない場合には、堆肥施用から収穫までの期間を、収穫部位が土壌から離れた野菜は2か月、土壌に近い野菜は4か月以上空けましょう。
 - 4 農機具や収穫容器等は清潔な状態を保ち、汚水の流入や野生動物の侵入防止等、栽培環境の整備にも努めましょう。
- ※ 野菜の衛生管理の詳細はこちら
→https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/sanzen/yasai_eiseikanri.html



◎農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを！！

農業保険には、農作物共済、園芸施設共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。

◎農業経営収入保険

「農業経営収入保険」は、災害による減収に加え、市場価格の低下など農業者の経営努力では回避できない理由により販売収入が減少した場合も補償の対象になる総合的なセーフティネットです。（青色申告の実施が要件）

<野菜のみ>

令和3年から、「農業経営収入保険」に加入した1年目に限り、「野菜価格安定制度」との同時加入が認められました。現在、価格安定制度に加入しており、収入保険に興味のある方は、ぜひ御検討ください。

また、収入保険の加入申し込みは随時受け付けていますが、今年から、農林水産省の共通申請サービスを利用することにより、自宅のパソコンなどからオンラインで申請できるようになりました。事務費の割引もありますので、これを機に加入をご検討ください。

※ 詳しくは、お近くの農業共済組合までお問い合わせください。

連絡先 農産園芸課
稲作・畑作振興グループ
県庁内線 5073
直通 017-734-9480

野菜・花き振興グループ
県庁内線 5076
直通 017-734-9485

県民の皆さまへのお願い
新型コロナウイルス感染拡大防止



<https://www.pref.aomori.lg.jp/koho/covid19kakudaiboushi.html>